

27	スポーツ推進本部	東京 2025 世界陸上・東京 2025 デフリンピックに向けた準備・開催
事業概要	「TOKYOスポーツレガシービジョン」（令和4年1月策定）、「ビジョン 2025 スポーツが広げる新しいフィールド」（令和5年2月策定）及び「ビジョン 2025 アクションブック バージョンアップ」（令和7年1月策定）に基づき、東京 2025 世界陸上及び東京 2025 デフリンピック（以下「両大会」という。）の成功に向け、関係者と連携し、大会の準備・運営に協力していく。 また、両大会の成功に向けては、都民・国民からの信頼が重要であり、国際スポーツ大会のガバナンスや情報公開、都の関与の在り方などについて、有識者の意見を反映した「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」を令和4年12月に策定・公表（令和5年6月改定）した。	
これまでの経過	1 東京 2025 世界陸上競技選手権大会 令和4年7月、世界陸上競技選手権大会の令和7（2025）年の開催地が東京に決定した。 令和5年7月、東京 2025 世界陸上の大会運営組織である一般財団法人東京 2025 世界陸上財団（（令和6年4月より、公益財団法人に移行。以下「世界陸上財団」という。）が公益財団法人日本陸上競技連盟（以下「日本陸連」という。）により設立された。 同年11月、世界陸上財団において、「大会開催基本計画」、12月に「財政計画」を公表した。 大会準備・運営を着実に進めるため、世界陸上財団が大会準備・運営に関すること及びガバナンス確保等の適切な組織体制の構築に関することを担い、都はそれらに対する必要なサポートを行った。 また、都、世界陸上財団、日本陸連の三者共同で外部有識者を含む「契約・調達管理会議」を設置し、世界陸上財団の予算及び契約調達事務の適正な執行を確認した。 世界陸上財団は、令和6年5月1日から1か月間を「500 Days to Go! 開催まであと 500 日!」キャンペーン期間とし、東京 2025 世界陸上ファン ID 登録の受付を開始するとともに、チケット販売概要、ボランティア募集の概要及び大会ロゴを発表した。同年8月に、大会競技日程が発表され、チケットの先行販売を開始した。さらに、同年10月にスペシャルアンバサダーとアスリートアンバサダーを決定した。 令和7年1月、世界陸上財団は大会のモットーやコアグラフィックス、キャッチコピーを公表し、チケットの一般販売を開始した。同月に公式マスコットデザインを公表してネーミング投票を開始し、同年2月にネーミングを「りくワン」に決定した。また、令和6年11月より募集を開始したボランティアは、令和7年3月に3,100人の採用を決定した。 令和7年4月、世界陸上財団はサステナビリティプランを策定した。同年5月から東京都と世界陸上財団が協働して、持続可能な航空燃料 SAF の原料となる家庭の油の回収キャンペーンを開始した。また、同月に、都、大会主催者であるワールドアスレティックス（以下、「WA」という。）、世界陸上財団、日本陸連で、東京 2025 世界陸上を「こどもに夢を届ける大会」としていくことに合意し、世界陸上財団と連携して、都内全小学校にリレー競技用のバトンを配布する「バトンプロジェクト」を実施した。同年6月、世界陸上財団は大会 100 日前イベントを開催し、メダルデザインを発表した。また、同月に、大会を契機として子供たちに陸上競技に興味を持ってもらい、スポーツを「する」きっかけを作るため、スポーツドリルを作成し、冊子を都内全小学校4～6年生に配布するとともに、HPに公表した。	

同年8月、世界陸上財団は令和5年12月に策定した財政計画を更新し、大会前の最終計画として発表した。

大会前日である同年9月12日には、都市の魅力発信にもつながるよう、KK線（東京高速道路）において多彩なランニング体験イベントである「RUNS:INTO KK」を開催した。

同年9月13日から同月21日までの9日間で同大会を開催し、193か国・地域と難民選手団から1,992名の選手が参加し、入場者数は61万9,288人を記録した。また、大会のボランティアとして2,858人が参加した。

2 東京2025デフリンピック

令和4年9月、デフリンピックの令和7（2025）年大会の開催地が東京に決定した。

令和5年2月、一般財団法人全日本ろうあ連盟（以下「全日本ろうあ連盟」という。）により「2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議」が設置され、大会準備運営について、都や関係者との情報共有、調整・協議を実施した。

同年4月、全日本ろうあ連盟や公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（以下「事業団」という。）において、運営組織が設立された。

都と全日本ろうあ連盟は、大会準備運営にかかる業務の分担を行っている。大会開催に係る国際ろう者スポーツ委員会の窓口などの役割を、全日本ろうあ連盟が担い、競技・会場運営などの運営実務を、事業団が担っている。

また、都、全日本ろうあ連盟などで外部有識者を含む「契約・調達管理会議」を設置し、予算及び契約調達事務の適正な執行を確認した。

同年8月に大会ビジョン、実施競技、競技会場等を示した「大会概要」を公表、同年9月に大会エンブレムを決定した。

同年11月、「大会開催基本計画」、12月に大会開催に必要な計画額をまとめた。

令和6年3月には、より多くの方々や企業等に参画していただき、一緒に大会を創り上げていくための取組として、寄附及び協賛の受付を開始した。

令和6年5月から7月まで、クラウドファンディングによる寄附の取組を実施した。

同年6月、各自治体等のキャラクターによる「東京2025デフリンピック応援隊」を結成し、都のスポーツ推進大使である「ゆりーと」を大会公式マスコットとした。

同年9月、国立大学法人筑波技術大学と協働して、大会の準備・運営に取り組むため、事業団において連携協定を締結した。

同年9月、大会の入賞メダルのデザインを小中高生による投票で決定することとし、同年11月にメダルデザインが決定した。

同年11月、各国選手団の団長が集まる選手団団長セミナーを開催し、東京産食材の提供や都伝統工芸品の贈呈、東京の観光資源などのPRを実施した。

さらに同月に、競技会場等で活動するボランティアの募集を開始し、令和7年3月に抽選で、3,500人を当選者として決定した。

令和7年2月、マラソン会場を含め、追加の競技会場及び練習会場について決定した。

また同月、キャッシュレス募金による寄附の取組を開始した。

国際手話人材の裾野拡大を図るため、東京都国際手話普及促進事業を実施し、令和5年度は延べ331名、令和6年度は延べ217名の国際手話講座の受講費用を助成した。

同年6月、セッションスケジュールの公表を行った。

同年6月から、ボランティアに対し、共通研修や手話言語研修・ろう者の文化等理

	解研修等を、順次実施した。 同年 7 月から、大会時に実施する子供の競技観戦・体験活動事業への参加を希望する学校の募集を行った。順次、参加日程等を決定するとともに、参加校へ配布する事前学習用資料の制作を進めた。 同年 8 月に、開閉会式の一般観覧者募集を実施した。
現在の進行状況	1 東京 2025 世界陸上競技選手権大会 大会終了後、世界陸上財団は、大会を総括し、大会運営を通じて得た様々な知見や学びを可能な限り記すことで、大会の記録・記憶を後世に残し、今後の国際スポーツ大会の運営の一助とすることを目的として、2026 年 1 月に「東京 2025 世界陸上競技選手権大会 大会報告書」を作成した。 <u>《リンク》</u> 東京 2025 世界陸上競技選手権大会 大会報告書 世界陸上財団は、各契約に基づく支払いや保有する資産の保管・承継、レガシー継承に向けた事業の構築等の業務を着実に進め、令和 8 年 3 月 31 日をもって解散した。 2 東京 2025 デフリンピック 令和 7 年 11 月に、「東京 2025 デフリンピック競技観戦ガイド」を策定した。 同年 11 月 15 日から同月 26 日までの 12 日間で同大会を開催し、79 か国・地域等から 2,943 名の選手が参加し、入場者数は 38 万 8,403 人を記録した。また、大会のボランティアとして 2,959 人が参加した。 大会終了後、全日本ろうあ連盟、東京都、事業団の 3 者は、大会開催までの歩みや大会を通じて得られた経験、創出されたレガシーを後世に継承するため、2026 年 3 月に「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025 大会報告書」を作成した。 併せて、大会の記録を映像としても残すため、「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025 大会記録映像」を制作した。 <u>《リンク》</u> 第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025 大会報告書 第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025 大会記録映像 事業団内の運営組織は、各契約に基づく支払いや保有する資産の保管・承継、レガシー継承に向けた事業の構築等の業務を着実に進め、令和 8 年 3 月 31 日をもって解散した。 3 ビジョン 2025 レガシーブック 東京都では、この 2 つの国際スポーツ大会の開催を活力とし、スポーツの力で東京の未来を切り拓くため、両大会を通じて目指す姿を「ビジョン 2025」としてまとめ、取組の方向性を示しながら、大会後のレガシーも見据え、様々な取組を進めてきた。 両大会のレガシーを未来へつなぎ、スポーツの力によって「すべての人が輝くインクルーシブな街・東京」の実現に向け、歩みをさらに加速させていくため、2026 年 1 月に、これまでの取組の成果や、両大会がもたらしたレガシーをまとめた「ビジョン 2025 レガシーブック」を策定した。 <u>《リンク》</u> 世界陸上・デフリンピック ビジョン 2025 レガシーブック

今 後 の 見 通 し	1 東京 2025 世界陸上競技選手権大会 世界陸上財団解散後、4月から清算法人に移行する。所定の手続きを経た後に清算終了し、法人格が消滅する予定。 2 東京 2025 デフリンピック 事業団内運営組織解散後、4月から事業団内スポーツコミッションTOKYOデフリンピック室で清算業務を進める。デフリンピック室は、6月で業務を終了し、組織が廃止される予定。 3 ビジョン 2025 レガシーブック 両大会を通じて創出されたレガシーを今後のスポーツ施策につなげていく。		
問 合 せ 先	スポーツ推進本部 国際スポーツ事業部 事業調整課	電話	03-5000-7435